

田村のつぶやき 第32号

2024.11.8 発行

文責：島根県立江津高等学校長 田村康雄

大谷翔平選手の話

2年前の2学期始業式で、大谷翔平選手の話をしました。野球にあまり興味がないという人も、今シーズンの大谷選手の大活躍は知っていると思います。あらためて大谷選手の話をしていきます。

大谷選手は、岩手県の花巻東高校時代から投打で才能を発揮し、甲子園にも出場。2012年のドラフト1位で北海道日本ハムファイターズから指名され、2013年の入団以降、投手と打者を両立する「二刀流」の選手として試合に出場。日本で5年間、その後ロサンゼルス・エンゼルスで6年間プレイし、2022年のシーズンには「野球の神様」と呼ばれたベーブ・ルースが1918年に13勝、11本塁打の成績を残して以来、実に104年ぶりとなる「2桁勝利&2桁本塁打(15勝&34本)」の偉業を達成しました。大リーグではベーブ・ルース以降、そもそも二刀流に挑戦する選手さえほとんど現れなかったなかで、大谷選手が新たな歴史を刻んだのです。さらに今シーズンからロサンゼルス・ドジャースに移籍し、前人未踏の「54本塁打&59盗塁」の記録を達成し、地区優勝、リーグ優勝を経て、ワールドシリーズでニューヨーク・ヤンキースを破りワールドチャンピオンに輝きました。まさに記録にも記憶にも残る大活躍です。

その大谷選手が高校1年生の時に作った「マンダラチャート」と呼ばれる目標達成シートの話も有名です。このシートは、強い目標(夢)を中央に置き、それを実現するために必要だと考える要素を、周囲9×9の合計81マスに具体的に書き込んだものです。大谷選手が中央に書いた目標(夢)は「8球団からのドラフト1位指名」でした。「見ているだけのものは夢、それを口に出して言葉にした瞬間目標が変わる」という言葉があります。夢は叶えるものだが目標は達成するもの、大谷選手はそれを高校1年生16歳の頃にすでに実行していたことが何より驚きです。大谷選手は、中央の目標(夢)を達成するために必要な要素として「体づくり」「コントロール」「スピード160km」といった項目と並んで「人間性」や「運」という項目を記入しました。「人間性」を身につけるためには「思いやり」「感謝」「礼儀」といった項目が並び、「運」には「あいさつ」「ゴミ拾い」「本を読む」といった項目が並びます。大きな目標を達成するためには、小さな目標をコツコツと達成していく、そういった意識を持って日々の生活を送ることが大切だと思わされます。

蛇足ながら、大谷選手は日本のプロ野球どころかアメリカメジャーリーグからもオファーを受け、高校3年生の時には日本のプロ野球には行かずメジャーリーグに行くことを表明していました。そのことが影響してドラフトで大谷選手を指名したのは日本ハム1球団のみとなり、目標達成とはなりませんでしたが、メジャー表明をしていなければ間違いなく8球団どころか、それ以上の球団から1位指名を受けていたことでしょう。この時、大谷選手を1位指名した日本ハムの栗山英樹監督は、昨年のWBC(ワールド・ベースボール・クラシック)の日本代表監督も務め、14年ぶり3度目の優勝、悲願の世界一奪還を果たしました。大谷選手はアメリカとの決勝戦で9回からマウンドに上がり、見事胴上げ投手になりました。

江津高校は「自らの成長のために挑戦できる生徒」を育てていきます。みなさんも大谷選手にならってマンダラチャートを作成してみませんか。自分の目標(夢)を実現するために、何が必要か、何をすべきか、具体的に言葉や文字にしてみると新たな気づきがあるかもしれません。